

* 竹田市感染症情報(竹田市独自集計) *



令和8年第22週 (5月25日~5月31日)

今週もヘルパンギーナの報告がありました

今週も調査医療機関より1名の報告がありました。大分県全体では定点あたり0.86人で、先週の0.42人から増加しています。

手足口病に気をつけましょう

調査医療機関からの報告は1名でした。大分県全体では定点あたり6.31人となり、先週の2.92人から大幅に増加し、流行発生警報の開始基準値を上回りました。

手足口病は、口の中や手足に水疱を伴う複数の発しんが出る感染症です。子どもを中心に、主に夏に流行します。予防には手洗いが重要です。手足口病は、治った後も比較的長い期間便の中にウイルスが排泄されますので、おむつ交換や排便後は流水と石けんでしっかり手を洗いましょう。

RSウイルス感染症について

調査医療機関より1名の報告がありました。大分県全体では定点あたり0.50人で、先週の0.56人からわずかに減少しました。

RSウイルス感染症は、初夏から夏に増加する急性の呼吸器感染症で、主な症状は発熱、鼻汁、咳などです。ただし、生後6か月以内の乳児や基礎疾患を有する高齢者では細気管支炎や肺炎など重症化することがあります。予防には、手洗いや咳エチケットなどの飛まつ・接触予防策が有効です。また令和8年度からは、妊婦の方へのRSウイルスワクチンの予防接種が定期接種となりました。妊娠中に接種することで、生まれてくる子どものRSウイルス感染を防ぐことができます。詳しくは、お住まいの自治体へご確認ください。

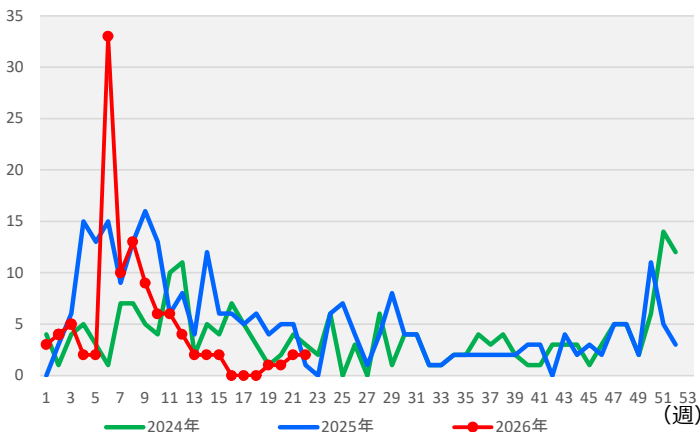
様々な感染症の報告がみられます。手洗い、咳エチケットなど、基本的な感染対策を心がけましょう。



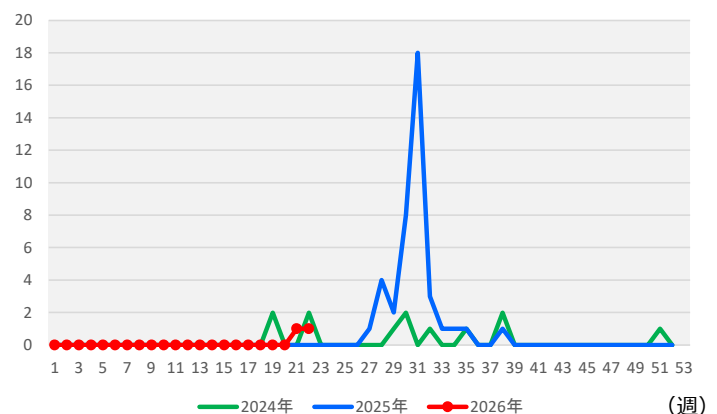
(第22週) (調査医療機関8か所の総患者数)

疾患名 年齢	インフルエンザ			新型コロナウイルス感染症	RSウイルス感染症	咽頭結核熱(プール熱)	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘(みずぼうそう)	手足口病	伝染性紅斑(リンゴ病)	突発性発疹	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	マイコプラズマ肺炎	麻しん(全数報告)	風しん(全数報告)	百日咳(全数報告)	つつが虫病(全数報告)	
	A型	B型	不明																	
0歳					1															
1~3歳										1										
4~6歳													1							
7~9歳							1													
10~14歳																				
15~19歳																				
20歳以上								2												
今週					1		1	2		1			1							
70歳以上(再掲)					/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
先週								2	1			1	1							

(人) 感染性胃腸炎竹田市8医療機関総数



(人) ヘルパンギーナ竹田市8医療機関総数



< 4つのお願い >

1. 「基本的な感染対策」で感染予防！

室内の換気、手洗いの励行、咳エチケット、
場面に応じたマスク着用など

2. 「ワクチン接種」で重症化予防！

高齢者や基礎疾患のある方は、特に接種をおすすめします

3. 「体調おかしいな？」は休んで感染の拡大防止！

少しでも体調に異変を感じたら、ちゅうちょせず休みましょう
コロナは5日間、外出を控え療養を

4. 検査キット、解熱剤等の常備薬を準備！

体調不良時の自宅検査・療養に備え、早めに準備しておきましょう



夏の感染症対策ガイド

出典：厚生労働省ホームページ

TOPICS 夏を安全に楽しもう！ 感染症対策ガイド

感染対策基本のキ

1 流水と石けんでの手洗い

2 よく触れる物のアルコール消毒

3 可能な範囲でのマスク着用

からだに不調を感じたら

医療機関に相談しましょう

感染症の初期は発熱や咳などで発症しますが、猛暑で体力や免疫力が低下すると、感染リスクも高まります。「変だな？」と思ったら、医療機関に相談してください。

感染症についての情報はこちら



4

ヘルパンギーナ

(特徴)

発熱と喉の痛みが主な症状の夏かぜの一種です。合併症として、熱性けいれん、特に乳児では脱水症、まれですが小児では髄膜炎や心筋炎などに注意が必要です。発症後4週間後までは、便からウイルスが排泄されるため、おむつ交換の際はしっかり手洗いしてください。

(感染経路)
感染経路は、便からの感染を含む接触感染と飛沫感染です。

4

ヘルパンギーナ



5

手足口病

(特徴)

口の中や、手足などに水疱性の発しんが出る感染症です。こどもを中心に感染し、多くが数日間のうちに改善しますが、まれに重症化することがあり注意が必要です。

(感染経路)

飛沫感染、接触感染、糞口感染(便の中に排泄されたウイルスが口に入って感染)が知られています。

INDOOR

2

新型コロナウイルス感染症

(特徴)

令和5年5月に感染症法上の「5類感染症」に移行されましたが、リスクの高い感染症に変わりはありません。引き続き基本的な感染対策を心がけ、自分や周囲への感染を防ぎましょう。

(感染経路)

患者から排出されるウイルスを含む飛沫、さらに小さな水分を含んだ粒子(エアロゾル)の吸入、感染者の目や鼻、口に直接目に接触することにより感染します。

3

咽頭結膜熱

(特徴)

アデノウイルスの感染により、発熱、のどの痛み、結膜炎といった症状が数日続く、こどもに多く見られる感染症です。感染者が使ったタオルなどにウイルスを含んだ目やに、唾液、鼻水が付着していることもあるので、タオルの共用は避けましょう。

(感染経路)

主な感染経路は飛沫感染、接触感染です。

1

RSウイルス感染症

(特徴)

RSウイルスによる呼吸器感染症です。生後6か月以内の乳児、基礎疾患のある小児や高齢者がかかる可能性があるので、注意しましょう。

(感染経路)
主に接触感染、飛沫感染によって感染します。

2

新型コロナウイルス感染症

1

RSウイルス感染症



時岡 史明



健康と生活支援部
感染症対策課長
医療体制部門長

「咳エチケット」などの基本的な対策が必要
この時期は、夏かぜといわれる「手足口病」「ヘルパンギーナ」「咽頭結膜熱」などの感染対策を気にとめて、「夏かぜは、こどもがかかる

もの」と思われがちですが、夏かぜの原因となるウイルスの型には多くの種類があり、1シーズンに向もかかる人も少なくありません。また、近年夏期に増加傾向がみられている「RSウイルス感染症」や「新型コロナウイルス感染症」もまだまだ注意が必要です。いずれの感染症も手洗いや咳エチケット、換気などの基本的な感染対策が重要です。発熱やせきに加えて、呼吸が苦しい、食事や水分が摂取できないといった症状が見られたら、すぐに医療機関に相談しましょう。